

小学生・作文 愛媛県砂防協会会長賞

「ひとつとからわがことへ」

愛南町立城辺小学校 5年 増田 朝海^{ますだ あさみ}

私が2年生の時の1月3日。私は家族みんなでパーティーをしていました。みんなが楽しくおしゃべりをしている中で、消防車の音が鳴りひびきました。「火事かな。」私はそれくらいに思っていました。すると家の電話が鳴り、「おばあちゃんの家が火事になった。」とお父さんに言われました。「まさか。」これまで、火事と聞いても自分たちとは少し離れていて、まさか自分たちの身に起こると思ってもいませんでした。ひとつとだった火事が、わがことになってしまいました。

小学5年生になり、私は総合的な学習の時間に土砂災害について勉強しました。そのとき、「災害」はいつ自分の身近で起こるか分からないのだと、2年生の時の思い出しながら真けんに学びました。

勉強してみると土砂災害には、がけくずれ、土石流、地すべりの3種類あることが分かりました。しかも、わりと発生しやすい災害であることも分かりました。

一つ目のがけくずれは、近くの山やがけが崩れてきて起こる災害です。私のおばあちゃんの家は、がけのすぐそばに建っています。おばあちゃんの家は、自然豊かで野生の動物もたくさんいる山の中にあります。私が2年生の時に火事になったので、今は新しい家です。とても環境の良いところだけど、「もし、がけくずれが起こったら」と思うと、新しく建てた家がこわれてしまいそうでつらいです。しかし何よりも、足腰の悪いおばあちゃんが、無事に逃げられるのかが、とても不安になります。3年前の火事を思い出します。ひとつとではなく、わがこととして考えなければなりません。

二つ目の土石流は、土や石が雨水と一緒にあって勢いよく流れてくることです。ダムのあるところは、土石流をくい止められるかもしれないけれど、私のおばあちゃんの家は、本当に山の奥なので、守られていません。しかも、集落の人たちはお年寄りばかりで、若い人たちがいないから、いざという時は、みんなが逃げ切れるかどうか分かりません。そんなことを考えると怖くてたまらなくなります。

三つ目は地すべりです。地すべりは、かたむいた土地の一部がすべり落ちることです。私が住む愛南町には、太陽光をつけるために山をけずって、土地がしゃ面になっているところがあります。そこで地すべりが起こったり、近くの住宅がつぶれてしまったりしそうで、とても怖いです。山が多い愛南町では、どこで起こってもおかしくないのです。

この学習をするまでは、土砂災害は、私にとって身近なものではなく、遠くで起こる出来事でした。勉強しなくてはいけないから、なんとなく聞いていたことでした。

もう一つ大切なことを学びました。それは土砂災害から免れる方法もあるということです。それは、この災害には前ぶれがあるということです。小石が落ちてくること、火花が見えること、木のおいがしてくることでした。これは、土石流を体験できる車に乗ってみて、分かりました。前ぶれに気づくことでひ害からにげられる可能性が高くなるのなら、ぜひこのことを、おばあちゃんに知らせたいです。そして、おばあちゃんの命を守りたいです。

私にできることは、このような学習したことを、おばあちゃんはもちろん、近所の人たちに伝えること、そして、みんなで声をかけ合って防災グッズをそろえ災害に備えることです。そして、災害がいつ起きてもいいように、避難訓練を真けんにすることです。すべてを、ひとつと、自分に関係ないことと思わず、まず、自分はその時どの立場にいるかを考えて、わがこととして考え、行動に移して、自分やみんなの命を守りたいです。